12－４　売上帳

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　売上帳の記入をマスターしよう！

②　売上帳から総勘定元帳へ転記できるようになろう！

売上帳を特殊仕訳帳とした場合、「**売上**」勘定（収益）が親勘定となります。

特殊仕訳帳としての売上帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 勘定科目欄には、相手勘定科目を記入します。

③ 摘要欄には、取引の内容（得意先、商品名、数量、単価、支払条件など）を簡潔に記入します。

④ 元丁（もとちよう）欄には、転記先の総勘定元帳の番号（ページ数）を記入し、総勘定元帳のその番号（ページ数）へ転記が済んだことを示します。取引が行われた日に転記しない場合（特別欄の勘定科目や他の特殊仕訳帳の親勘定）は「√」を記入します。

⑤ 金額は、特別欄を設定してある勘定科目はその欄へ、特別欄を設定していない勘定科目は「諸口」欄へ記入します。

⑥ 値引や返品があった場合は、朱記します。

⑦ 一定期間（例えば、１ヶ月）が経過したら締め切ります。その期間における特別欄の合計金額、総売上高（売上の増加）及び売上返品・値引高（売上の減少）を記入し、それぞれの総勘定元帳へ合計転記を行います。なお、純売上高を記載しますが、これは総売上高と売上返品・値引高の差額ですので、その金額は転記しません（転記済み）。

以下に特殊仕訳帳としての売上帳の例を示します。なお、特殊仕訳帳として、当座預金出納帳、売上帳、仕入帳を設定しています。

売　上　帳

1

日	付	勘定科目	摘要	元丁	売掛金	諸口
4	?	当座預金		√		×××
	?	現金		1		×××
	?	売掛金		√	×××	
	?	売掛金		√	×××	
	?	売掛金		√	×××	
	30		売掛金	4	×××	×××
	〃		総売上高	11		×××
	〃		売上返品高	11／4		×××
	〃		純売上高			×××

例題12－2　**次の取引を、特殊仕訳帳としての売上帳に記入し、総勘定元帳に転記しなさい。ただし、特殊仕訳帳は月末に締め切るものとし、他に特殊仕訳帳として、当座預金出納帳と仕入帳を用いている。**

4月4日　商品を売り上げ、代金2,200円は当座預金に振り込まれた。

13日　商品を売り上げ、代金100円は現金で受け取った。

21日　商品を売り上げ、代金1,800円は掛けとした。

25日　商品を売り上げ、代金1,700円は掛けとした。

27日　4月25日に売り上げた商品が返品され、代金300円は掛けを減額した。

①　売上帳の記入

売　上　帳

1

日	付	勘定科目	摘　要	元丁	売掛金	諸口
4	4	当座預金		√		2,200
	13	現金		1		100
	21	売掛金		√	1,800	
	25	売掛金		√	1,700	
	27	売掛金		√	300	
	30		売掛金	4	3,500	3,500
	〃		総売上高	11		5,800
	〃		売上返品高	11／4		300
	〃		純売上高			5,500

4月4日　「当座預金 2,200／売　上 2,200」

当座預金勘定は特別欄がないので、「諸口」欄に金額を記入します。また、当座預金勘定は当座預金出納帳の親勘定ですので、元丁欄には売上帳から転記しないという意味で「√」を記入します。

4月13日　「現　金 100／売　上 100」

現金勘定は特別欄がないので、「諸口」欄に金額を記入します。また、個別転記するため、元丁欄には現金勘定のページ数を記入します。

4月21日　「売 掛 金 1,800／売　上 1,800」

売掛金勘定は特別欄があるので、「売掛金」欄に金額を記入します。また、後で合計転記するため、元丁欄には個別転記しないという意味で「√」を記入します。

4月25日　「売 掛 金 1,700／売　上 1,700」

売掛金勘定は特別欄があるので、「売掛金」欄に金額を記入します。また、後で合計転記するため、元丁欄には個別転記しないという意味で「√」を記入します。

4月27日　「売　　上 300／売 掛 金 300」

売上戻りなので、朱記します。売掛金勘定は特別欄があるので、「売掛金」欄に金額を記入します。また、後で合計転記するため、元丁欄には個別転記しないという意味で「√」を記入します。

4月30日

1ヶ月が経過したので、売上帳を締め切ります。特別欄の売掛金合計3,500円（売上戻り高除く）を売掛金勘定の借方へ合計転記します。また、親勘定である売上勘定へ増加合計（貸方合計）5,800円を合計転記します。さらに、売上戻り高300円を親勘定である売上勘定の借方と、売掛金勘定の貸方へ合計転記します。

② 総勘定元帳の記入（仕丁欄は省略しています）

現　金　　1

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
4	1	前月繰越	?				
	13	売上帳	100				

売 掛 金　　4

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
4	1	前月繰越	?	4	30	売上帳	300
	30	売上帳	3,500				

売　上　　11

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
4	30	売上帳	300	4	30	売上帳	5,800

12－５　仕入帳

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　仕入帳の記入をマスターしよう！

②　仕入帳から総勘定元帳へ転記できるようになろう！

仕入帳を特殊仕訳帳とした場合、「**仕入**」勘定（費用）が親勘定となります。

特殊仕訳帳としての仕入帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 勘定科目欄には、相手勘定科目を記入します。

③ 摘要欄には、取引の内容（仕入先、商品名、数量、単価、支払条件など）を簡潔に記入します。

④ 元丁（もとちょう）欄には、転記先の総勘定元帳の番号（ページ数）を記入し、総勘定元帳のその番号（ページ数）へ転記が済んだことを示します。取引が行われた日に転記しない場合（特別欄の勘定科目や他の特殊仕訳帳の親勘定）は「√」を記入します。

⑤ 金額は、特別欄を設定してある勘定科目はその欄へ、特別欄を設定していない勘定科目は「諸口」欄へ記入します。

⑥ 値引や返品があった場合は、朱記します。

⑦ 一定期間（例えば、１ヶ月）が経過したら締め切ります。その期間における特別欄の合計金額、総仕入高（仕入の増加）及び仕入返品・値引高（仕入の減少）を記入し、それぞれの総勘定元帳へ合計転記を行います。なお、純仕入高を記載しますが、これは総仕入高と仕入返品・値引高の差額ですので、その金額は転記しません（転記済み）。

以下に特殊仕訳帳としての仕入帳の例を示します。なお、特殊仕訳帳として、当座預金出納帳、売上帳、仕入帳を設定しています。

仕　入　帳

1

日	付	勘定科目	摘　要	元　丁	買掛金	諸　口
4	?	当座預金		√		×××
	?	買掛金		√	×××	
	?	買掛金		√	×××	
	30		買掛金	8	×××	×××
	〃		仕入高	21		×××

例題12－3　**次の取引を、特殊仕訳帳としての仕入帳に記入し、総勘定元帳に転記しなさい。ただし、特殊仕訳帳は月末に締め切るものとし、他に特殊仕訳帳として、当座預金出納帳と売上帳を用いている。**

4月12日　商品1,300円を仕入れ、代金は小切手を振り出した。

14日　商品1,200円を仕入れ、代金は掛けとした。

27日　商品1,700円を仕入れ、代金は掛けとした。

①　仕入帳の記入

仕　　入　　帳

1

日	付	勘定科目	摘　要	元　丁	買掛金	諸　口
4	12	当座預金		√		1,300
	14	買掛金		√	1,200	
	27	買掛金		√	1,700	
	30		買掛金	8	2,900	2,900
	〃		仕入高	21		4,200

4月12日　「仕　　入 1,300／当座預金 1,300」

当座預金勘定は特別欄がないので、「諸口」欄に金額を記入します。また、当座預金勘定は当座預金出納帳の親勘定ですので、元丁欄には仕入帳から転記しないという意味で「√」を記入します。

4月14日　「仕　　入 1,200／買 掛 金 1,200」

買掛金勘定は特別欄があるので、「買掛金」欄に金額を記入します。また、後で合計転記するため、元丁欄には個別転記しないという意味で「√」を記入します。

4月27日　「仕　　入 1,700／買 掛 金 1,700」

買掛金勘定は特別欄があるので、「買掛金」欄に金額を記入します。また、後で合計転記するため、元丁欄には個別転記しないという意味で「√」を記入します。

4月30日

一ヶ月が経過したので、特別欄の買掛金合計2,900円を買掛金勘定の貸方へ合計転記します。また、親勘定である仕入勘定へ増加合計（借方合計）4,200円を合計転記します。

② 総勘定元帳の記入（仕丁欄は省略しています）

買 掛 金　　8

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				4	1	前　月　繰　越	?
					30	仕　入　帳	2,900

仕　入　　21

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
4	30	仕　入　帳	4,200				

12－６　普通仕訳帳

【重要性：C】

ＰＯＩＮＴ！

普通仕訳帳の記入をマスターしよう！

普通仕訳帳には、特殊仕訳帳に関係ない取引が記入されます。また、普通仕訳帳に記入された取引は各勘定へ**個別転記**します。

普　通　仕　訳　帳

1

日付		摘　　要	元丁	借　方	貸　方
4	1	（未払利息）	10	1,000	
		（支払利息）	29		1,000
	3	（備　　品）	6	20,000	
		（未 払 金）	9		20,000
	9	（買 掛 金）	8	5,000	
		（売 掛 金）	4		5,000

普通仕訳帳は以下の手順で記入します。

①　日付欄には、取引が行われた日を記入します。

②　摘要欄には、勘定科目を記入します。真ん中より左側に借方科目、右側に貸方科目を記入します。勘定科目が複数の場合には複数側の上に「諸口」と書きます。なお、諸口とは複数という意味です。また、勘定科目の下に取引の概要を記入します（試験では省略されることが多いです）。

③　元丁欄には、転記先の総勘定元帳の番号（ページ数）を記入し、総勘定元帳のその番号（ページ数）へ転記が済んだことを示します。

④　借方欄と貸方欄には金額を記入します。

第12章　特殊仕訳帳　問題

問題12-1　次の取引を、特殊仕訳帳としての仕入帳に記入しなさい。ただし、特殊仕訳帳は月末に締め切るものとし、他に特殊仕訳帳として、当座預金出納帳と売上帳を用いている。なお、買掛金勘定及び仕入勘定の総勘定元帳における丁数は11及び22である。

1月11日　商品7,000円を仕入れ、代金は掛けとした。

15日　1月11日に仕入れた商品について800円の値引きを受けた。なお、この代金は買掛金から差し引くこととした。

24日　商品1,500円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

第12章　特殊仕訳帳　答案用紙

問題12-1

仕　入　帳

1

日付		勘定科目	摘　要	元　丁	買掛金	諸　口

第12章　特殊仕訳帳　解答解説

問題12-1　**解答**

仕　入　帳

1

日付		勘定科目	摘要	元丁	買掛金	諸口
1	11	買掛金		√	7,000	
	15	買掛金		√	800	
	24	当座預金		√		1,500
	31		買掛金	11	7,000	7,000
	〃		総仕入高	22		8,500
	〃		仕入値引高	22／11		800
	〃		純仕入高			7,700

問題12-1　**解説**

1月11日　「仕　　入 7,000／買 掛 金 7,000」

「買掛金」勘定は特別欄があるので、「買掛金」欄に金額を記入します。また、後で合計転記するため、元丁欄には個別転記しないという意味で「√」を記入します。

1月15日　「買 掛 金 800／仕　　入 800」

仕入値引なので朱記します。「買掛金」勘定は特別欄があるので、「買掛金」欄に金額を記入します。また、後で合計転記するため、元丁欄には個別転記しないという意味で「√」を記入します。

1月24日　「仕　　入 1,500／当座預金 1,500」

「当座預金」勘定は特別欄がないので、「諸口」欄に金額を記入します。また、「当座預金」勘定は当座預金出納帳の親勘定ですので、元丁欄には仕入帳から転記しないという意味で「√」を記入します。

1月31日

1ヶ月が経過したので、仕入帳を締め切ります。特別欄の買掛金合計7,000円（仕入値引高除く）を「買掛金」勘定の貸方へ合計転記しますので、「元丁」欄には「買掛金」勘定の丁数である「11」を記入します。

また、親勘定である「仕入」勘定へ増加合計（借方合計）8,500円を合計転記しますので、「元丁」欄には「仕入」勘定の丁数である「22」を記入します。。

さらに、仕入値引高800円を親勘定である「仕入」勘定の貸方と、「買掛金」勘定の借方へ合計転記します。したがって、「元丁」欄には「仕入」勘定と「買掛金」勘定の丁数である「22／11」を記入します。